天地　ネットワークテーブル　564号

天地シニアネットワーク　2025. 2. 16

過去発行分(WEB)：https://temti-senior.com/

TENTI TODAY			1
会員の広場			2
歴　史	悪童転じて総理大臣になる(上)	望田武司	2
歴　史	「了解日本(日本を知る)」(28) 「中国社会にも表(建前)と裏(本音)がある」	兪彭年	6
歴　史	E･ライシャワーの日本昭和史(9)	津田孚人	8
講演会	新三木会 『ヨーロッパ史の構図ー現代世界を規定するヨーロッパの正体を求めて』		10
事務局			10

****

TENTI　TODAY

****

北陸地方を中心に日本海側の各地は断続的に大雪に見舞われ、大変厳しい日々を迎えていると報道されています。経験したことがない大雪とのことですので、深刻です。一方、関東地方では、晴天続きで空気が乾燥、火事が多発しています。自然環境が変わり住みにくくなりました。温暖化対策、待ったなしです。

****

高校(国立・桐朋高校)の後輩が、米・大リーグ・アスレチックスへ入団しました。高校生から直接大リーグへ入団するのは、初めてとのことで驚きです。多くの米国球団スカウトが練習をみに国立まできたとのことなので、実力は本物でしょう。国内では、能力面よりも、超進学校からの挑戦という興味本位の取り上げ方をしているように見えて気になります。1高校生の契約金が2億数千万円の米国球界、ドラフト1位の契約金が1億円の日本球界、度量の差が大きいのも驚きです。

****

大リーグに2001年から2019年まで選手として在籍した鈴木イチロー元選手が、米国野球殿堂入り(アジア人として初めて)に選出されました。米国だけでの通算記録、3089安打、117本塁打、打点780、盗塁509、打率0. 311は、超人的数字です。米国野球殿堂入りの条件は、メジャーで10年以上プレーし、引退から5年が経過した元選手で、決定は、全米野球記者協会に10年以上在籍する記者の投票によるとのこと。ほぼ満票で決定したのも当然で、日本の野球の技量を、全米に広く知らしめた功績は偉大です。続いて大谷翔平選手が大活躍しています。日本の野球の評価がますます高まることは間違いありません。

****

イチロー選手は、高校を卒業して1992年にオリックスにドラフト4位で指名され入団しました。当時、各球団スカウトの評価は、あまり高くなかったようです。入団後の本人の努力と、運があったと思いますが、早い段階で金の卵の真価を見抜けなかった

日本の球界、現状も変わらずのようで不安と不満が残ります。
****

会員の広場

****

悪童転じて総理大臣になる（上）

望田　武司（札幌市）（８1歳）
t21xmochida@feel.ocn.ne.jp

（2025.1.23）

昨年体調を崩して入院から療養と、長期にわたり自宅でボケっと過ごしていた私は、久しぶりに国会のテレビ中継を見た。そして総選挙で議席を減らして少数与党となった石破茂内閣の所信表明演説を漫然と聞いていた。すると冒頭、一字一句かみしめるような口調で、懐かしい著名人の言葉を引用した石破総理の声が耳に入った。
≪　国政の大本について、常時率直に意見を交わす慣行を作り、おのおのの立場を明らかにしつつ、力をあわせていくようにしなければなりません。これは昭和 32 年の石橋湛山内閣の施政方針演説の一節です。この言葉に示されている通り、民主主義のあるべき姿とは、多様な国民の声を反映した各会派が、真摯に政策を協議し、よりよい成案を得ることだと考えます≫

　国会の議席の過半数を割り、野党の協力なくしては法案も予算も成立しない状況のもとで、国政のかじ取りを担うことになった石破総理は、野党の意見を真摯にそして謙虚にと言う言葉を何度も使って難局を乗り切ろうとしている。
ここに石橋湛山（写真左）が亡霊の如く現れたのに驚いた。戦後の総理大臣に石橋湛山と言う人がいたということを知っている人は、今日どれだけいるだろうか。
札幌一番の名所、札幌農学校の時計台で観光ボランティアガイドをして 20 年、クラーク先生が体を鍛えるために作らせた演武場（今日の体育館、後に屋根に時計が取り付けられたことから時計台の愛称で親しまれている）で、展示されている顔写真を見ながら「この人のおかげで総理大臣になれた方がいるんですよ」と紹介することがしばしばある。石橋湛山である。
ところが本州から見える観光客のほとんどが石橋湛山という総理大臣は知らないと言うし、時計台が札幌農学校の一施設であったこと自体も知らなく、説明を聞いてびっくりされる。

私がちょうど中学生の頃である。新聞を読むのが楽しみだった私はなぜか覚えている。ただ政治のことはよく知らず、お坊さんみたいな人が総理大臣になったのかと言う程度の認識だった。戦後吉田茂、鳩山一郎の後、保守合同で総理になった石橋湛山は、自由主義・ヒューマニズムを唱えて日本の軍国主義・帝国主義を批判し、中国・ソビエトと平和交渉に前向きな姿勢を示したリベラリストであった。
　ところが石橋湛山は総理就任直後、脳梗塞で倒れ、わずか 2 か月の短命内閣で終わった。石橋湛山のあとの総理大臣は岸信介で、ここで日米安全保障条約が結ばれ、日本の対米追従路線が敷かれて今日に至っている。
　もし、石橋内閣がもう少し続いていたなら、ドイツがヒットラーの犯した第二次世界大戦の過ちを、素直に周辺諸国に謝罪して今日のドイツを築いたように、日本の外

交上の位置取りは変わったであろう（太田ラッパこと太田薫元総評議長）と指摘する向きが多い。
　石破総理が所信演説で石橋湛山を取り上げたことにより、現在でもリベラルで平和主義の石橋湛山を慕う「石橋湛山研究会」なるものが存在し、これに現職の国会議員が与野党問わず大勢参加しているということを新聞報道で知ってびっくりした。わずか2か月の短命内閣で終わったために、表面的には影の薄い政治家と思われがちであるが、その政治姿勢を学ぼうとする後輩政治家が後を絶たないのを知ると、石橋湛山の遺徳がしのばれて、改めて勉強させられる。

　石橋湛山は山梨県の人で、明治 28 年山梨中学校（後の甲府中学、現在の甲府一高）に入学した。山梨県では一番の有名進学校で、先生より頭のいい生徒は、先生の言うことなどは聞かず、手の施しようのない荒れた学校で有名だったという。その時の“番長”が、他ならぬ石橋湛山であった。

　湛山はまともに学校に行かず、3 年で卒業できず落第ばかりしていた。高下駄をはいた番長姿で街中を、学校を、肩で風を切って闊歩していたのだろうか。山梨の山猿と言われるほどの山梨中学の生徒を御せるほどの校長が見つからず、しばらく校長不在であったが、そこに登場してきたのが、アメリカのクラーク博士を招いて開校した札幌農学校の最初の入学生、つまり一期生の生徒、大島正健（まさたけ・相模出身）であった。（写真左）

　大島校長は、母校の札幌農学校や同志社で教鞭をとった後、奈良中学の校長を務めていたが、当時の日本の教育界、キリスト教界の有力者に要請されて山梨中学校の校長として赴任した。校長不在で頭を悩ませていた知事や政界の関係者が安堵する中で行われた大島校長着任式は、足踏みをしながら「帰れ、帰れ」と言う生徒の大合唱で始まった。
生徒の異様な言動で迎えられた大島校長は「黙れ！山猿ども！」と声を張り上げて一喝する一方、クラーク先生から直々に教わった自由と独立・自主の精神を生徒に教えた。平たく言えば今日の民主主義である。当時の日本は日清戦争から日露戦争へと突き進み、軍国主義・国家主義一色の世の中で、大島校長の教育方針は異彩を放った。民主主義とキリスト教に基づく人間教育のエキスを、大島校長から学んだ石橋湛山は、目からうろこが落ちたと学習態度を一変させて、6 年目でようやく中学校を卒業して大学に進むのである。

札幌農学校とクラーク博士そこで学んだ一期生の大島正健とはどんな人物だったのだろうか。札幌農学校は教育に熱心だった開拓長官の黒田清隆（後の 2 代目総理大臣・薩摩）が、明治 9 年創設したもので、アメリカのマサチュセッツ州立農科大学の学長ウイリアム・S・クラーク博士（写真右）を招聘して開校する。
　明治維新になってロシアの南下を怖れる明治新政府は、戊辰戦争の最後の戦い箱館戦争が終わった明治 2 年、北海道の首府を最南端の函館五稜郭から,中央部の札幌に移すが、そのときの札幌の人口は、和人がわずか 2 世帯 7 人しか住んでいない原野であった。
　その 7 年後に農学校が開校した時の人口はまだ 2900 人程の建設途上の町で「札幌本村」といわれ、開拓使の役人と、街づくりで東北から出稼ぎに来ている作業

員、単身の作業員が母ちゃん恋しさに夜逃げして東北に帰ろうとするのを食い止めるため、国が作った遊郭「薄野」の公娼たちなどが主たる住民であった。
逆に言えば、このような時期と場所に、日本の近代高等教育のレジェンドともいえる札幌農学校を作った黒田開拓長官の先を見る眼力と剛腕には驚かされる。
文部省より先に開拓使独自の予算で海外派遣留学制度を創設し、しかも女子にまで門戸を広げて 6 歳の津田梅子が留学できたのも黒田清隆のおかげである。5000 円札の顔となった津田梅子は岩倉使節団の一員として留学したとよく言われるが、そうではなく、たまたまアメリカに行く船が岩倉使節団と一緒だった。
クマやオオカミがうようよしているし僻地の北海道に生徒を募集しても集まりそうもない。そこで黒田開拓長官は考えた。＜授業料無料にします。寮生活で生活費も無料です。お小遣いもあげます＞今日でいう防衛大学校みたいな飴玉を用意して募集したのである。これに家庭が貧しくても青雲の志をもって上京し、東京英語学校や後の東京大学となる開成学校に通っていた地方の若者が飛びついた。

東京での面接試験ではクラーク博士が自ら行って、英語のできる若者を合格させた。先生はみなアメリカ人、英語の授業だけでなく、すべての授業を英語で行う学校である。明治 9 年にして英語のできる若者たち？ ちょっとビックリする。
これについて明治維新で＜武士＞と言う職業がなくなり、失業した武士の中には、これからはもう朱子学や儒学の時代でない、西洋の技術・文化を習得して日本は発展しなければならないと、子どもに英語の勉強ができる環境を与えた父親の影響が大きいのではないかと指摘する北大研究者もいる。
クラーク面接官のお眼鏡にかなった若者は、明治９年７月、黒田開拓長官・クラーク博士と同じ船で、札幌農学校開校式、即一期生の入学式に臨むため横浜から小樽に向かった。生徒の中には「まるで外国に行くみたい」と期待に胸を弾ませる日記を書いている者もいる。ところがそれほど豊かでなかった失業した武士の子である。家庭では躾まで回らなかったのだろうか、どてらの袖は鼻汁でピカピカ、さらに船倉に近い船室が割り当てられて機械の音がうるさくて寝れないと、立場をわきまえずわめき散らす生徒らも出てきた。
これには黒田長官は怒りだし、「お前たちの入学を取り消す、帰れ」と怒鳴る始末である。その一方で生徒の言動を、にが虫をつぶして見ていたクラーク博士に対し「この子らは将来の日本の指導者になる人たちです。ぜひ最高の道徳を教えてほしい」と要請するのである。

クラーク先生「わかりました、おやすい御用です、それにはキリスト教を教えることが一番です」と応じた。これを聞いて黒田長官(写真右側)びっくり、「今なんとおっしゃった？キリスト教と言うのは、耶蘇教のことではないか、耶蘇教は日本では9年前まで禁教とされていた宗教です。そんなものを国立の学校で教えてもらっては困ります」とキリスト教を教えることを拒否した。クラーク先生(写真左側)曰く「わかりました、それでは私は道徳を教えません」。
黒田長官とクラーク博士の対立は船内だけでなく、札幌に着いてからも続いた。開校式が間近に迫って黒田長官はクラーク先生を呼んで、「先生、考え直していただいたでしょうか」と言うと、クラーク先生「私にとって最高の道徳はキリスト教しかありません。」と、あくまでキリスト教なしの道徳を教えることを拒否した。
事がここまで来てはと黒田長官「わかりました、先生の好きなようにやってください」

クラーク博士はボストンで留守を預かる妻に「9年前まで禁教だった日本で、キリスト教を教えることができるようになった」と小鼻をひくひくさせて書いたような手紙を出している。ただ黒田長官は一つの条件を出していた。札幌農学校でキリスト教を教えているということを東京に言わないでほしいと。

明治新政府は薩長政権とは言うものの、その内実は薩摩と長州の陰湿な政権争いが続いており、黒田長官は長州に足を引っ張られることを怖れたのだ。今日のように電話やメールがあるわけではなく、札幌と東京の連絡は船便で1か月はかかる時代である。札幌農学校が開校する 2 年前の明治7年樽前山が噴火した時、開拓使から太政官へ報告し、その対応の指示が東京から1か月後に札幌に届いた。その時はもう噴火は収まっていた。悠長な時代だったのだ。東京に伝わることが遅くなるのはそれなりに効果があった。

明治初頭、日本で近代的な高等教育が行われた学校は二か所しかなかった。一つは東京大学(明治 10 年開校、19 年にでた帝国大学令によって東京帝国大学となる)、もう一つは後に北海道帝国大学となる札幌農学校の二校だけだった。

厳密に言うと札幌農学校は明治 9 年開校なので、東京大学より 1 年早い。従って札幌農学校で 4 年勉強して卒業し、「農学士」と言う学士号を授与された一期生が日本で最初の学士となる。

石ころ投げれば学士に当たる今日とはえらい違いの学士様である。札幌農学校は一期生 24 人でささやかにスタートしたが、すべて英語の授業についていけなかったのか、それとも薄野におぼれた生徒もいたのか、4 年で卒業できたのはわずか 13 人であった。(右:一期生の卒業写真、上段左から 2 番目が大島正健)

大島正健はというと 4 年で卒業して、日本で最初の学士の一人となり、むしろ一期生のリーダーとして活躍した。

ところで、アメリカの大学で学長だったクラーク博士が、なぜ札幌農学校では教頭なのかと観光客に聞かれることがある。それは、札幌農学校が国立の学校であり、国立である以上責任者は日本人でなければならなかったからだという。ただ黒田開拓長官はクラーク博士に対し、対外的には president を使ってもいいと言っている。

この結果、調所広丈校長(薩摩)が、開校前に作った< 〇〇すれば退学、△△すれば停学 >という“罰則校則”をみて、クラーク教頭はその場でその紙きれを破り、顔を赤くして怒る校長に「そのようなこまごまとした校則はいりません。校則はただひとつ ≪Be gentleman≫、これだけで言いですと突っぱね、学校運営から授業内容まですべてクラーク博士が仕切った。

また学校に体育館がないのに驚き、高等教育を受ける者と言へども、ひとたび国を二分する戦争が起きれば、みな鉄砲担いで前線に行かなければならない。そのために体を鍛えておく必要があると、自ら学園を飛び出して南北戦争の北軍の大佐として一師団を率いて前線にでて死線をさまよい、辛うじて帰還した経験を生かし、今日の体育館ともいえる演武場(現在の時計台)を作るよう指示している。現に開校した2年後の明治 11 年、国を二分した西南戦争が起きている。このときは 学徒動員はされずに済んだが、生徒の日誌には体育は嫌いだと書いている者もいた。

頭でっかちだったのだろう。札幌は空襲を受けていないので、演武場は明治時代の創設当初のまま残されており、西欧の田舎の教会のような地味な建物でありながら、日本の近代高等教育のレジェンドとして、明治の建物としては早い段階で国の重要文化財に指定されている。

面白いことに札幌を初めて訪れる本州の観光客は、必ず時計台を見に来るが、時計台が札幌農学校の一施設だと思っている人はほとんどいない。屋根に時計が取り付けられているロマンのある建物だと思ってしきりにシャッターを押して、そのままお帰りになる観光客がいかに多いことか。

時計台の中に入った観光客に、待ち構える私たちガイドが、「時計台の 2 階は今の体育館、正式名称「演武場」と言われる大学の一施設で、クラーク先生が指示して建てられました。「演武場」と言う扁額の題字は、右大臣岩倉具視がこのために筆・硯・紙まで本場の清国から取り寄せて書いて、東京から送ってきたものですよ」と説明すると、ロマンの時計台を見るという表面的な観光だけでなく、そのような歴史的意義のある建物だったのかとびっくりする。認識の落差の大きい札幌一番人気の観光名所・時計台である。

この札幌農学校で、クラーク博士はこれまでの日本では考えられなかった教育を行い、その薫陶を受けた一期生の大島正健は、山梨中学の校長として井の中の蛙であった悪童の石橋湛山の才能を見事開花させるのである。(つづく)

****

「了解日本」(「日本を知る」(28)　　　　　　愈彭年 (87歳)

日本人の二元構造:内と外、表と裏(4)

「中国社会にも表(建前)と裏(本音)がある」

表(建前)と裏(本音)の話の区別は日本だけの現象ではないと日本人は言うが、実はこの現象は中国社会にも存在する。筆者は中国社会を観察していると、日常生活から、中国社会には確かに表的な言葉と裏的な言葉があると感じる。ただ中国人はこのことを意識していない。

例えば、上海バスの「優先席」を例にとると、中国人は平日バスに乗ると、若者に専用席が占められていることが多い。これらの若者は優先席を譲る要求に対して、返事をしないか、寝ているふりをするか、譲らないことに固執していることがある。

運転手や車掌は特別席の占有にほとんど関与しない。バスの中で放送された音声メッセージには、「高齢者と障害者、妊婦、子供を抱いている乗客に席を譲ってください。ありがとうございます」、「助けが必要な乗客に席を譲ってください。ありがとうございます」、そして特別席の文字表示「高齢者と障害者の特別席」と黄色の座席表示があるが、いずれも中国の人は言っているだけの表面的な話だと思っている。公徳性を標示しているだけで、強制力のある法律法規ではないため、やるやらない、聞く聞かない、は自主的な判断となる。

現在の多くの国民の文明的素質によれば、彼らの裏(本音)は特別専用席が空

いているのになぜ座ってはいけないのか、席を譲りたい人が譲ればよいのであって、自分とは関係ない、となる。

同様に上海のバスの例であるが、無人券売システムは、乗客に文明的に乗車を規範化させた方法であるが、バスに乗るには前のドアから乗車し、バスを降りるには後ろのドアから下車をする。停留所に近づくと、バスの車内で「××を×の通路はこちらです。後ろのドアからの降車にご協力ください」との音声が流れる。しかし乗客は耳を貸さず、依然として前のドアから降り、さらに車内の一部の乗客はわざわざ後ろのドアを通過して前のドアまで来て降りたりする。

運転手は前のドアから車を降りることを気にしない。前のドアから下車する人々の考えは、数秒の時間と7、8 メートルの歩行距離を短縮するためなのである。規定や音声表示に対しては、公然と反対や否定はしていないが、これらは表面上のことだと思っている。彼らは、聞く聞かない、はどうでもよく、彼らの裏面(本音)は、自分がやりたいようにする、誰も干渉できません、ということである。

スーパーやデパートなどでよく宣伝のために「質の高いサービスを提供する」という信頼性を挙げるが、中国人はどれだけ信じているのだろうか。提供されているサービスの大部分は良質とは言えない。レジスタッフの冷淡な表情、ぶっきらぼうな話し方、さらに命令口調は、客側の我々は、いじめられているように感じる。さらに購入した品物が散らばっているので、客自身が急いで持っている袋に入れるが、受け取った後に客に「ありがとう」と言うスタッフはほとんどいない。これらの状況下では決して買い物を楽しむことはない。

カウンターや棚などには従業員がたくさんいるが(海外と比較すると人数は明らかに多いが実はそんなに必要ではない。完全に人があふれていて、就業人口を増やすためにやっているのかどうかは不明)、どれだけ客にサービスを提供しているのか疑問である。集まって雑談をする人は少なくなく、無表情で立って何もしていない人も多い。お客様の話を聞き親切に答える人、必要な商品を見に行くように親切に誘導する人は、ほとんどいない。

時には赤いバナーを斜めに背にした案内嬢が玄関やエスカレーターの口に立っているのを見ることもあるが、お客様に提供するサービスはあまり見られない。もちろん、これらの現象には、管理上の問題と従業員の資質の問題があるが。

そのため、ほとんどの国民は、良質なサービスを提供するというフレーズを商売誘致の広告宣伝と見なし、見栄えのいい建前だということを知っている。もちろん彼らは誰も公に抵抗したり暴露したりすることはしない。しかし心の中では、無視して人を愚弄していると思い嫌悪している。

この二元構造の現象はどこにでも見られるが、中国人は、ただ二元構造として意識していないだけなのである。中国人は表(建前)の話を公然と反対したり否定したりすることはできないことを知っている。それには一定の道理と来由があり、一定の社会公徳を反映しているからだ。

21 世紀初頭だろうか、具体的な時間は覚えていないが、私たちの中国共産党総書記は会議で全国に真実を話すように呼びかけた。筆者はこのニュースを聞いたとき、自分がショックを受けたことを覚えている。同時に、国人も二重構造を構成しており、表面的な話(うそ?)と内面的な話(本当の話)が使い分けられていることを深く感じたのである。

2010 年 5 月 10 日

****

E･ライシャワーの日本昭和史（9）　　　　　　　津田　孚人（87歳）

:「ライシャワーの昭和史・ジョージ・R・パッカード著・森山直美訳、講談社」より

１９４２年２月、ハーバードの日本語講座の学生数は、ざっと100人近くになっていた。前年の１０人ほどから大きく増えていた。その年の夏、E･ライシャワーは、陸軍通信隊から日本語の暗号通信を扱う“翻訳者”と暗号解読者の“養成所”をワシントンに作るよう要請され、家族４人、バージニア州アーリントンに移った。

養成所を作るという仕事は高度の機密に属しており、ライシャワーは保全許可認定審査にかけられた。審査には著しく時間がかかった。彼は、「試験に落ちたのだと思い始めた。最初の尋問者に、日本人がすべて悪い人だとか、軍国主義者だということはない。人格高潔で、正直で、平和を愛する人たちも結構います」と云っていた。

やがて審査に合格し、新しい任務についた。通信隊は、暗号解読を行った。セキュリティーは厳重で、建物は有刺鉄線のフェンスで三重に囲まれ、内部で働く者は生涯、機密を守ることを誓約させられた。

任務は、二段階にわたっていた。最初は、傍受した日本語通信文の翻訳者を養成する、民間人としての日本語教師の仕事だった。二番目は、諜報専門家が傍受した膨大な通信文の解読にあたる特別部門の軍人（少佐、その後中佐）としての任務となった。当時をこう語る。

「戦争により、おまえはいったいどちらの国に対して忠誠心をもっているのか、と問われたといえるのかもしれない。私は日本で生まれ育ち、人生の半分以上は日本が故郷だった。知り合いの日本人だけでなく、日本の文化と国を尊敬し、好意を感じていた。しかし、自分は百パーセント、アメリカ人だという意識を失ったことはなく、戦争で間違っているのは日本のほうだと確信していた。

日本国内に関して私は、民主主義の実現への道を閉ざし、あくなき海外侵略へと導いた軍政を遺憾に思った。アジアにおける西欧の帝国主義と、在米日本人にたいする人種差別を日本人が批判するのはもっともであるにせよ、中国と、今度はハワイへの日本の侵略行動は、いかにしても正当化されるものではなかった。

日本の戦争機械（ウォー・マシーン）は、世界平和のために、また長い眼でみれば日本国民自身のために阻止されなくてはならない、と思った。こういったことは、すべて当然すぎることだと考えていたので、わざわざ考えなくてはならない、と思ったことはまったくなかった」

ライシャワーは、以前に日本に赴任していたセブンスデイ・アドベンティストの宣教師二人に加え、日本語の良くできる別の宣教師の息子と、一年をかけて学校を設立していた。そこに、ハーバードの自分のクラスにいた５０～６０人のほかに、コロンビア大学とイエール大学からも生徒を集めた（これらの生徒は、開戦後最初の二年は、米陸軍の下士官だったが、１９４４年に少尉に昇格した）。

ライシャワーは、生徒８人の厳格なる教師だった。生徒たちの任務は、傍受された日本語の外交電報を、ローマ字からどう読み解くかを学ぶことだった。生徒たちは、十分な関連の語彙を習得したのちに、大部屋で１日、２４時間、８時間の３交代制で、入ってくる電文の処理にあたった。彼らの間では、お互いを本名で呼ぶことはなく、ライシャワーの暗号名は、「りーアス」（Ree-us）だった。

ライシャワーがアーリントン・ホールに設立した学校と、暗号解読工作（マジック）は、おどろくべき優秀な人材を利用していたことが後に判明する。眼を見張るようなキャリアを歩むものが多数輩出したのである。例えば、合衆国最高裁判所の賠責保険裁判官、ケネディ政権の司法次官、公民権運動の推進者、スタンフォード法科大学院長を経てニューヨークの外交問題評議会会長、などなど・・・。

その中の一人、大手コミュニケーション企業ヴァイアコムのトップになり、億万長者となったＳ・レッドストーンは、ハーバードでライシャワーの日本語講座の学生で、すでにギリシャ語を１２年、ラテン語を１０年学ぶ、語学の達人だった。

ライシャワーは、彼の才能を認めてアーリントン・ホールに引っ張った。彼は、平均的な日本人が知るよりも、はるかに上を行く漢字を覚えた。ライシャワーについて、彼は、「若くて攻撃的だったが、思いやりがあった。私たちの個人的な悩みをいつも気にかけてくれた。自信満々で、日本育ちだったのに日本人にたいして、まったく甘い所を見せなかった。それどころか、パールハーバーのことで怒り狂っていた」と語っている。

さらに別の一人、コロンビア大学の著名な歴史学者、Ｆ・グラフは、「ライシャワーは若くてやや神経質な講師で、講義をしているときに、よくポケッとの中の鍵をガチャガチャさせていた。しかし、偉大な人で、驚くほど日本についての知識が豊富で、どことなく品があった。とくに制服の着こなしがうまかった。銀座で一番いいレストランを知っていて、日本人のことをたくさん教えてくれた。彼がやっていることは、亡くなったお兄さんができなかったことの埋め合わせなのだと思った」、と語っている。

ライシャワーは、将来、将校になる数百人を訓練したことを誇りとしていた。彼は、「私の知るかぎり、彼らのうちで日本に憎しみを示したものはいなかったし、そのうちの多くが日本につい幅広く勉強したために、共感と同情を深めるようになった。そういえることを誇りに思う」と後に書いている。

１９４３年８月、ライシャワーは、陸軍本部諜報部の少佐になり、最高機密の部署「スペシャル・ブランチ」に配属された。傍受した通信文から得られる諜報担当の部隊である。この部隊が「マジック」、すなわち大統領とその最高レベルの助言者に直接伝達される緊要諜報の作成を行った。ライシャワーは、ペンタゴン内のこの特別部門と、彼自身がアーリントン・ホールに作った日本語学校のあいだのリエゾン（連絡）を務め、そして、１９４４年１２月、中佐に昇格した。

１９４５年に入り、ニューメキシコ州アラモゴードでの新型の破棄的な兵器の開発の秘密計画が話題になりはじめた。同僚がそのことを語ると、ライシャワーは「その話は聞きたくない」と聞くのを拒否した。しかし、ある朝、数人の将校とともに特別部門の中央オフィスへ呼ばれ、広島への原爆投下の話を知らされた。

ライシャワーは、この驚愕すべき事態に最初はうろたえた。傍受した日本暗号を解読していたので、日本はだいたい3か月後の４５年１１月ごろに多分降伏するだろうと予測していた。原爆投下については、のちに次のように説明している。

「人間が居住するターゲットに投下せずに原爆の威力を証明する、といった代案はあっても実行はできなかったであろう。広島と長崎に投下された二つの原爆と、両方の投下のあいだに行われたソ連による満州侵入をもってさえ、日本の軍部が文民政府に降伏を許るすかどうか、情勢は際どかったのである。

原爆投下がなければ、軍部は戦いつづけると主張し、数十万のアメリカ人死傷者をだしただろうし、日本も数百万の非戦闘員が餓死し、日本という国は、実質的に破壊しただろう。

ソ連は、朝鮮半島全部と、日本の一部ないし全部を占領し、ポーランドか分裂ドイツのような、全面的に共産主義化された朝鮮半島と日本を作ったことだろう」。
しかし、かれは広島への原爆投下（８月６日）と長崎への投下をはっきり区別した。仮に最初の投下を正当化する理由づけがあるとしても、二番目の長崎への投下はまったく理由がなりたたない。アメリカ当局首脳は、最初の原爆投下には苦悩したが、二番目のときには、熟慮した様子もなく、ほとんど迂闊に約7万の人間を抹殺した。

話は飛ぶが、古都京都が米空軍による通常兵器・核兵器爆撃から免れたのはライシャワーのおかげという説に対して彼は、用心深く、その噂を沈めた。京都・同志社大学の米人教授の研究では、1945年に京都を救った功労者は、スティムソン陸軍長官だった。長官は、1925年に新婚旅行で京都を訪れており,この町が破壊されることが耐えられなかったとのことだった。

戦争直後、ライシャワーには、日本へ行く機会が何度かあった。最初は、アメリカが日本に対して行った爆撃の結果を評価する戦略爆撃調査団に加わるよう招聘されたときだった。しかし、1944年６月に三番目の子供が誕生し、年端のいかない家族をおいて出かけるのは気が進まなかった。
ＣＩＣ（対敵情報部隊）のポストが用意されたが、彼には高位の警察隊にすぎないと思われ、一（いち）日本研究者として余生を送る積りでいたので、「警察のスパイ」という烙印が押されるのは耐えられなかった。
マッカーサー元帥の政治顧問のスタッフにも空きがあり、少しあとで、占領史編纂主任になってはどうかという話もあったが、両方とも断った。元帥は「あまりに自己中心的だから、バランスのとれた歴史を書かせてもらえない」と考えたのである。（つづく）

****
新三木会・第155回講演会
****
２月２０日（木）　１３時～１５時　如水会館２階スターホール
講師　大月康弘氏　　一橋大学経済学部教授（理事・副学長）
演題：『ヨーロッパ史の構図―現代世界を規定するヨーロッパの正体を求めて』
参加は、会場と通信受講（申込：https://forms.gle/wXc3pTEPdy4vuetj6 ）
会費：　会場(受付払い)　２千円　・　通信受講希望者　千５百円（事前振込）
振込先：三菱東京 UFJ 銀行 / 船橋支店　普通預金 0132853
新三木会（シンサンモクカイ）
当日、終了後、茶話会あり　15:15～16:30　　会費　千円
****

天地シニアネットワーク事務局　（津田　孚人）

住所：〒116－0001荒川区町屋３－２－１
ライオンズプラザ町屋703
メールアドレス：tentisenior06@gmail.com
電話（携帯）：090－2534－1316

ト